

	ゼミナール名	ゼミナール III (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	授業における優れた意見やプレゼンの発出 (20%)、レポート (30%)、卒業研究 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業経営を研究して、各自の就職活動に活かしましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	企業調査、
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (行動科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学やその基盤としての行動科学の研究枠組みをふまえ、個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。</li> <li>2. 研究の成果を適切にまとめ、発表することができる。</li> </ol>
ゼミの概要	行動科学の研究手法を用い、各自が研究課題に取り組む。研究の成果は論文としてまとめる。まず問題関心を明らかにし、テーマを設定、適切な研究方法を選択する。それらは研究計画書にまとめ、発表する。さらに計画書にしたがい調査など研究活動を行った後、データを分析し得られた知見をまとめ、文章化していく。最後にまとめた研究成果を発表する。
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。
履修条件	3年次までに「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得しているもの。
テキスト	特に使用しない。
参考文献・資料	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001. 小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会, 2012. その他研究過程で必要となる資料・文献については適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 30%、卒業研究 50%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10・木曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、事前連絡なしの欠席、遅刻は一切認めない。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	データの整理
第2回	研究の成立する要件	第18回	データ入力
第3回	問題意識の明確化	第19回	データ分析
第4回	研究テーマの設定	第20回	研究ノートの作成①（構成）
第5回	研究テーマの報告会①（第1グループ）	第21回	研究ノートの作成②（各章の内容）
第6回	研究テーマの報告会②（第2グループ）	第22回	中間報告会①（第1グループ）
第7回	研究計画の策定①（仮説の設定）	第23回	中間報告会②（第2グループ）
第8回	研究計画の策定②（研究方法の選択）	第24回	中間報告会③（第3グループ）
第9回	研究計画の策定③（先行研究）	第25回	卒業研究の準備①（文章の表現）
第10回	研究計画の策定④（計画の適切性）	第26回	卒業研究の準備②（図表の整理）
第11回	研究計画の報告会①（第1グループ）	第27回	卒業研究の準備③（専門用語）
第12回	研究計画の報告会②（第2グループ）	第28回	卒業研究の準備④（注・引用文献）
第13回	研究計画書の作成	第29回	卒業研究の報告①（第1グループ）
第14回	研究のマナー	第30回	卒業研究の報告②（第2グループ）
第15回	事前調査の実施	第31回	卒業研究の報告③（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (民法)		
	ゼミ担当者名	鬼塚 隆政 (おにつか たかまさ)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	講義で習得した民法の知識を、本ゼミナールの判例研究により、具体的な問題の解決策を考えることができるレベルへと高める。
ゼミの到達目標	個別の判例について、事例を正確に理解し法的問題点を整理、説明できる。 具体的に妥当な結論とは何かを理解できる感覚を養成する。
ゼミの概要	判例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行います。 4年生なので、民法全ての分野の講義を履修している、あるいは同程度の知識を有する前提でゼミナールを行います。 適宜、関連する法分野の知識確認を行います。 担当教員やゼミ生全員でディスカッションを行います。 毎回範囲となる部分を予習し、疑問点を授業で発言してもらいます。 理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。
授業時間外の学習	ゼミナールで扱う範囲について、疑問点等を抽出し、講義で議論する準備をする。(1.5時間)
履修条件	民法総則、物権法、債権総論、債権各論、親族・相続の各科目について講義を履修した者、あるいはこれと同程度の民法の知識があること。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	内田貴他「民法判例集 総則・物権[第2版]」有斐閣 内田貴他「民法判例集 担保物権・債権総論[第3版]」有斐閣 内田貴他「民法判例集 債権各論[第4版]」有斐閣 内田貴他「民法判例集 親族・相続」有斐閣 我妻榮他「民法1 総則・物権法 第4版」勁草書房 我妻榮他「民法2 債権法 第4版」勁草書房 我妻榮他「民法3 親族法・相続法 第4版」勁草書房
成績評価の方法	ゼミナール内での担当回の発表内容(70%)と他の学生の発表への意見の内容(30%)を総合して評価します。自分の担当回を欠席した場合は大幅な減点となります。 就職活動による欠席も特別扱いはしません。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	講義時間以外いつでも可 なお、常時国家試験等センターにいます。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。 公務員になる人以外でも例えば金融機関に就職する人でも民法の知識は大変重要です。 社会人として働くにつき武器となる民法の知識をこのゼミナールで身に付けてください。 地方銀行員30年の経験を活かして全力でバックアップします。

授業計画			
第1回	ガイダンス、研究倫理教育	第17回	後期 発表担当・発表判例決め
第2回	資料の調べ方、担当決め。	第18回	判例研究発表・ディスカッション⑭
第3回	判例研究発表・ディスカッション①	第19回	判例研究発表・ディスカッション⑮
第4回	判例研究発表・ディスカッション②	第20回	判例研究発表・ディスカッション⑯
第5回	判例研究発表・ディスカッション③	第21回	判例研究発表・ディスカッション⑰
第6回	判例研究発表・ディスカッション④	第22回	判例研究発表・ディスカッション⑱
第7回	判例研究発表・ディスカッション⑤	第23回	判例研究発表・ディスカッション⑲
第8回	判例研究発表・ディスカッション⑥	第24回	判例研究発表・ディスカッション⑳
第9回	判例研究発表・ディスカッション⑦	第25回	判例研究発表・ディスカッション㉑
第10回	判例研究発表・ディスカッション⑧	第26回	判例研究発表・ディスカッション㉒
第11回	判例研究発表・ディスカッション⑨	第27回	判例研究発表・ディスカッション㉓
第12回	判例研究発表・ディスカッション⑩	第28回	判例研究発表・ディスカッション㉔
第13回	判例研究発表・ディスカッション⑪	第29回	判例研究発表・ディスカッション㉕
第14回	判例研究発表・ディスカッション⑫	第30回	判例研究発表・ディスカッション㉖
第15回	判例研究発表・ディスカッション⑬	第31回	判例研究発表・ディスカッション㉗
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	社会政策ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	木村 澄 (きむら きよし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人生の目的」とは何か？ その目的をどのような方法で達成するか？
ゼミの到達目標	<p>人生100年時代の「新しい働き方と生き方」を考えます。</p> <p>①哲学的思想・倫理的思考を再考する。②持続的な幸福である Well-being の構成要素を考える。③社会心理学的な考え方から社会問題を考える。④消費を追求する人生から脱却して情熱的に何かを生み出す人生にするために何が必要かを考える。⑤その他。</p> <p>自分が興味をいだく分野で専門技能を習得すること、人間関係の資本を育むこと、消費に重きをおくのではなく、創造的に何かを生み出し、質の高い経験を大切にする働き方にシフトするために何が必要かを考えます。</p> <p>創造性とイノベーションを発揮してこそ、人間は労働に意義を見いだすことができます。</p> <p>そのような新しい生き方、働き方を理解したうえで、ゼミナールでの「研究活動」を進め、プレゼンテーションを行います。そして、その成果がみなさんの職業生活と人生において生かせるようにすることを目標とします。</p>
ゼミの概要	これからの職業生活を核とする人生の中で、いかにして「持続的幸福感」を得ることができるのでしょうか。その方法を歴史沿革的、法的、政策的、社会学的、社会心理学的、心理学的などのさまざまな学問分野を通して考察します。
授業時間外の学習	各自のゼミ研究のテーマに沿って研究活動を進め、プレゼンテーションの準備をします。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【主体的学びの姿勢(30%)、ゼミ研究活動(50%) プレゼンテーション(20%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するため、小テストを行うことがあります。</li> <li>レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。</li> </ul> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週火曜日3時間目(13:00~14:30)・木曜日3時間目(13:00~14:30) ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	<p>皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立ちます。</p> <p>「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。</p> <p>できるだけ「楽しく」を目指します。食事会(焼肉!)で交流を図りましょう!</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	キャリア・ガイダンス	第18回	構成内容の変更点の確認①
第3回	研究テーマの確認①	第19回	構成内容の変更点の確認②
第4回	研究テーマの確認②	第20回	構成内容の変更点の確認③
第5回	研究テーマの文献資料の確認①	第21回	パワーポイントの変更点の確認①
第6回	研究テーマの文献資料の確認②	第22回	パワーポイントの変更点の確認②
第7回	研究テーマの構成の確認①	第23回	パワーポイントの変更点の確認③
第8回	研究テーマの構成の確認②	第24回	原稿とサマリーの確認①
第9回	研究テーマの構成の確認③	第25回	原稿とサマリーの確認②
第10回	社会的イノベーションの有無の確認①	第26回	プレゼンテーションの練習①
第11回	社会的イノベーションの有無の確認②	第27回	プレゼンテーションの練習②
第12回	サマリー原稿の発表と提出	第28回	プレゼンテーションの練習③
第13回	模擬プレゼンテーション①	第29回	卒業研究：プレゼンテーション①
第14回	模擬プレゼンテーション②	第30回	卒業研究：プレゼンテーション②
第15回	模擬プレゼンテーション③	第31回	卒業研究：プレゼンテーション③
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	国井ゼミナール		
	ゼミ担当者名	国井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	4年生は各自が目指す就職のための資格取得を目指します。 例えば宅建士、FP資格、簿記2級、証券外務員、税理士科目合格、中小企業診断士等
ゼミの到達目標	各自が自分の希望する仕事に就くための資格取得
ゼミの概要	各人が目指す資格のための勉強をしてもらう。
授業時間外の学習	各自、問題演習
履修条件	学生便覧に掲載されているルールが守れる学生。
テキスト	各自に指示する。
参考文献・資料	
成績評価の方法	学習態度(30%)・成績(60%)等で総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4時間目以降
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	まじめに目標に向けて努力できる学生を希望します。

授業計画			
第1回	研究倫理教育 中小企業診断士について	第17回	中小企業経営・政策② 労働生産性の現状・企業の取組と生産性
第2回	経済学・経済政策について① 基礎・国民経済計算	第18回	中小企業経営・政策③ サービスの進展とサービス産業
第3回	経済学・経済政策について② 経済統計の知識	第19回	中小企業経営・政策④ サービス産業の生産効率向上の取組
第4回	経済学・経済政策について③ 乗数効果と45度線分析	第20回	中小企業経営・政策⑤ IT普及と中小企業・有効活用・その課題
第5回	経済学・経済政策について④ IS-LM分析・無差別曲線理論	第21回	中小企業経営・政策⑥ グローバル化への対応・海外展開と生産性
第6回	経済学・経済政策について⑤ 費用曲線・不完全競争	第22回	中小企業経営・政策⑦ 中小企業の事業再生・中小企業金融の現状
第7回	経済学・経済政策について⑥ 国際マクロ経済学・市場の失敗	第23回	中小企業経営・政策⑧ 中小企業基本法・モノづくり高度化法・促進法
第8回	企業経営理論① 経営戦略・成長戦略	第24回	財務・会計① 財務諸表概論・B/S・P/L・キャッシュフロー計算書
第9回	企業経営理論② PPM・競争戦略・市場地位別競争戦略	第25回	財務・会計② 株主資本等変動計算書・経営分析
第10回	企業経営理論③ 組織のデザイン・組織論	第26回	財務・会計③ 収益性分析・効率性分析
第11回	企業経営理論④ モチベーション理論・リーダーシップ理論	第27回	財務・会計④ 流動性分析・生産性分析
第12回	企業経営理論⑤ 人的資源管理と人事システム・マーケティング	第28回	財務・会計⑤ キャッシュフロー計算書分析
第13回	企業経営理論⑥ 戦略的マーケティング・消費者行動・製品戦略	第29回	財務・会計⑥ CVP分析
第14回	企業経営理論⑦ 価格戦略・流通チャンネル戦略・物流戦略	第30回	財務・会計⑦ 利益再分析
第15回	中小企業経営・政策① 我が国の経済動向・構造変化に直面する中小企業	第31回	まとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (安全保障論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障の重要課題を研究する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。</li> <li>3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。</li> <li>8 国際人道法について概要を理解している。</li> <li>9 安全保障政策について意見を述べることができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>当初はゼミナールⅠ及びⅡのふりかえりも入れつつ、安全保障体制についてまとめを行います。後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> <li>・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。</li> </ul> <p>(予習2時間程度、復習2時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次の①～⑤の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生生活入門Ⅰ・Ⅱ、または総合科目Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。</li> <li>② 国際関係論、安全保障論概論、統治機構、民法総則、行政学Ⅰ、行政学Ⅱ、公共政策論、地域政策論、社会調査の仕方、国際研究入門、観光社会学、国際法のうち少なくとも3科目の単位を修得済みであること。</li> <li>③ 第1回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第1回ゼミナール時に配布する。）。</li> <li>④ 履修登録にあたっては、第1回ゼミナール時に担当教員と面接の上、登録許可を得ること。</li> </ol> </li> <li>2 安全保障論ゼミナールⅡの単位を修得済みであることが望ましい。</li> <li>3 ゼミナール内は討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。</li> </ol>
テキスト	授業中に指示する。

参考文献・資料	防衛白書（令和6年版）、外交青書（令和6年版）、田村重信ほか『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウェッジ）、徳川信治ほか『テキストブック 法と国際社会（第3版）』（法律文化社）、ヴォーン・ロウ『かんがえる国際法』（白水社）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミ論文及びプレゼンテーション50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、毎回安全保障に関するトピックの討議に並行して、前期から適時の論文指導を行います。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について） 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第17回	論文作成準備・テーマの確認・研究の方向性
第2回	今日の国際関係①（概観）	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	今日の国際関係②（地域ごと）	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策①（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	防衛政策②（テーマの抽出・討論①）	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛政策③（討論②）	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	国民保護政策①（概観）	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	国民保護政策②（討論）	第24回	個別指導①
第9回	国際人道法①（ジュネーブ条約概観）	第25回	個別指導②
第10回	国際人道法②（文民条約）	第26回	卒業論文ゼミナール発表（グループ1）
第11回	国際人道法③（捕虜条約）	第27回	卒業論文ゼミナール発表（グループ2）
第12回	国際連合の役割	第28回	卒業論文ゼミナール発表（グループ3）
第13回	紛争の平和的解決手段（討議）	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	平和安全法制①（概観）	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	平和安全法制②（我が国の平和協力の在り方）	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	心理学ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	瀬戸 泰		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	心理学は私たちの生活と密接に結びついている「心」と「行動」の働きや法則性を検証していく学問です。本ゼミナールでは、心理学に関する代表的な理論を整理していく中で、それらをベースとして、卒業研究に向け各自で研究テーマを決め、深めていくことを目的とします。
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の全体像を理解し、それらを通して自らの心や社会的な現象に対する洞察が行えること</li> <li>・心理学に限らず、論理的で分かりやすい説明が行えるようになるための素養を身につけること</li> <li>・他者への気配りや思いやりの心と行動を育むこと</li> </ul>
ゼミの概要	基本的に毎回、異なるテーマについて講義や文献講読を通じて心理学に関する理解を深めていきます。また、卒業研究に向けて、各自でテーマを決めて研究を進めていきます。
授業時間外の学習	学んだことを日常生活の中で意識的に当てはめて考察・活用するとともに、自身の興味のある研究テーマを見い出す意識を持ってください。
履修条件	心理学に興味があり、ルールを守れる方を履修条件とします。
テキスト	毎回、レジュメやテキストの写しを配布予定です。
参考文献・資料	必要に応じて、授業中に適宜お知らせします。
成績評価の方法	授業平常点 40%、定期試験（卒業研究等） 60% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日もしくは火曜日の 10:30 ~ 12:00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	現代は「心の時代」とも言われるように、悩みやストレスをどう和らげていくか、また、ビジネスや行政に心理学をどう活かしていくかなど「心理学 × 様々な領域」に対する注目が集まっています。日常生活や就職活動等にも応用の利く心理学を一緒に学んでいきましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション① (ゼミの進め方)	第17回	後期イントロダクション (後期の概要、個別面談)
第2回	イントロダクション② (個別面談)	第18回	論文講読
第3回	イントロダクション③ (学びの要点、研究倫理)	第19回	論文講読
第4回	心理学の代表的な理論① (文献学習)	第20回	論文講読
第5回	心理学の代表的な理論② (文献学習)	第21回	研究の進め方 (研究の流れ、文献検索)
第6回	心理学の代表的な理論③ (文献学習)	第22回	研究テーマの検討①
第7回	心理学の代表的な理論④ (文献学習)	第23回	研究テーマの検討②
第8回	心理学の代表的な理論⑤ (文献学習)	第24回	個別研究①
第9回	心理学の代表的な理論⑥ (文献学習)	第25回	個別研究②
第10回	論文講読	第26回	個別研究③
第11回	論文講読	第27回	個別指導・助言
第12回	統計学の基礎①	第28回	個別研究④
第13回	統計学の基礎②	第29回	個別研究⑤
第14回	各自興味のあるテーマの論文要約・発表	第30回	ゼミ内研究発表
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール II (感性データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	津谷 篤		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	感性工学でよく用いられる解析手法を用いて対象としたものの解析を行い、その結果を世の中に役立てる方法を提案する。
ゼミの到達目標	データサイエンスの中でも主に感性工学で用いられる解析手法（主成分分析、対応分析、ネットワーク分析、テキストマイニングなど）を用い、様々な物事のイメージや性質を定量評価できるようになる。そしてその結果の応用法を提案できるようになる。
ゼミの概要	<p>感性工学は、人間の感性という説明しにくいものをアンケートや多変量解析などを用いて数値化し、それをものづくりやマーケティングに活かす学問とも言える「理系と文系の融合領域」です。感性工学でよく用いられる手法を用い、ファッション、音楽、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、観光、食品など、様々なものを解析してみましょう。そしてその結果を世の中への貢献に役立たせる方法を考えましょう。（とはいうものの学問で普通に研究対象となるものにも使用可）。</p> <p>4年生時には卒業研究テーマを選択しその研究を進めていきます。研究テーマを定める前にまずいくつかの分析、解析手法を紹介します。研究手法が定まっていない人や他のゼミから移籍してきた人は紹介された手法の中から自分が卒業研究で用いるものを選びたいでしょう。就職活動が一段落していくつか良い研究結果が出ているのならば学会発表に挑戦してみましょう。</p>
授業時間外の学習	<p>普段から研究テーマさがしをしてほしいです。</p> <p>解析結果の紹介時にはスライドなどの資料を作成してもらいます。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコンを持参する</li> <li>・「データサイエンス基礎」「ビッグデータとAI」を受講することが好ましい</li> </ul>
テキスト	じっくり学びたい解析法に出会ったときはその都度参考にできるものを紹介します。
参考文献・資料	こちらで資料を用意します。
成績評価の方法	<p>定期試験(20%)、ゼミ活動への参加状況(30%)、ゼミ内・学内・学外での発表状況(50%) (学会発表高得点)</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	金曜日 13:00~17:10    tsuya@nau.ac.jp にご連絡いただくと他の日時も対応可能です。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	感性工学は普通の理系学生や普通の文系学生がたどり着けないいわば「文系であることを活かしたデータサイエンス」であるといえます。その学びを得て、就職活動などを行う際に「私は文系の大学でデータサイエンスの研究を行っていました。」と堂々と言えるようになりましょう。

授業計画			
第1回	研究倫理教育と感性工学研究の紹介	第17回	各自テーマの研究
第2回	各分析手法紹介	第18回	各自テーマの研究
第3回	各分析手法紹介	第19回	各自テーマの研究
第4回	各分析手法紹介	第20回	各自テーマの研究
第5回	対象に分析手法を適用してみる	第21回	各自テーマの研究
第6回	対象に分析手法を適用してみる	第22回	各自テーマの研究
第7回	対象に分析手法を適用してみる	第23回	各自テーマの研究
第8回	対象に分析手法を適用してみる	第24回	各自テーマの研究
第9回	各自テーマの研究 (学会エントリーのタイミング)	第25回	各自テーマの研究
第10回	各自テーマの研究	第26回	各自テーマの研究
第11回	各自テーマの研究	第27回	各自テーマの研究
第12回	各自テーマの研究	第28回	卒業研究発表準備 (学会エントリーのタイミング)
第13回	各自テーマの研究	第29回	卒業研究発表準備
第14回	各自テーマの研究	第30回	卒業研究発表準備
第15回	各自テーマの研究	第31回	卒業研究発表
第16回	中間報告	第32回	総括

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ【行政学・政治学・公共政策論・地方自治論】		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じ認識し、行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての理解を深めること。ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文(プレゼンテーション)を執筆しましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探究し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文をプレゼンすること。卒業要件を達成しつつ、自ら進路を選択し、卒業すること。</p>
ゼミの概要	<p>▶ ゼミナールⅠおよびⅡを経てゼミ論作成も佳境にあるはずですが。就職活動や資格試験でたいへんな時期でもありますが、それでもノースアジア大学で勉学に励んだ証を形にしましょう。 ▶ ノースアジア大学では「卒業プレゼンテーション」に合格しなければ卒業できません。 ▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。</p>
授業時間外の学習	<p>▶ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき事前学習(1.5時間)および事後学習(1.5時間)。 ▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。</p>
履修条件	<p>※前年度ゼミ担当教員の異動等で行き場のない学生も受け入れます。第1回ゼミに、成績表持参の上、必ず出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。その際、以下の条件のいずれかを満たすこと。上限を超えれば選抜します。 ▶ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」「公共政策論」「地方創生論」「比較政治学」等を履修済みであること。 ▶ 国家試験等センターに所属し、公務員・資格試験対策に取り組んでおり、面識があること</p>
テキスト	<p>▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定</p>
参考文献・資料	<p>『Freiheit: Erinnerungen 1954 - 2021』Angela Merkel, Beate Baumann (Kiepenheuer &amp; Witsch GmbH, 2024) 『コロナ化した世界』岩崎正洋編(勁草書房、2024) 『地方消滅2』人口戦略会議(中公新書、2024) 『質的比較分析(QCA)』パトリック・A・メロ著、東伸一・横山斉理訳(千倉書房、2023) 『命か経済か: COVID-19と政府の役割』岩崎正洋編(勁草書房、2023) 『クライエントリズムをめぐる比較政治学』日本比較政治学会編(ミネルヴァ書房、2022) 『人口減少時代の地域経営政策』川島典子編(晃洋書房、2022) 『原子力政策と住民参加ー日本の経験と東アジアからの示唆』田中良弘(第一法規、2022) 『比較政治学方法論批判』大木啓介(日本評論社、2021) 『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編(勁草書房、2021) 『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋(ナカニシヤ出版、2021) 『住民投票の全て』今井一編(『国民投票/住民投票』情報室、2021) 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann, (Springer VS, 2020) 『新しい地政学』北岡伸一・細谷雄一編(東洋経済新報社、2020) 『政策はなぜ検証できないのか』西出順郎(勁草書房、2020) 『原発災害で自治体ができたことできなかったこと』今井照編(公人の友社、2019) 『東日本大震災大規模調査から読み解く災害対応』稲継裕昭編(第一法規、2018) 『原発都市』乾康代(幻冬舎ルネッサンス新書、2018) 『詳説世界史研究』木村靖二・岸本美緒・小松久男(山川出版社、2017) 『Federalism and Social Policy』Scott L. Greer and Heather Elliot,(University of Michigan Press, 2019) 『地方創生大全』木下斉(東洋経済新報社、2016)</p>

	『地方分権の国際比較—その原因と中央地方間の権力関係の変化』 秋月謙吾、南京兌（慈学社出版、2016） 『比較政治学入門』 岩崎正洋（勁草書房、2015） 『ウェストミンスター政治の比較研究』 R.A.W.ローズ他著、小堀真裕・加藤雅俊訳（法律文化社、2015） 『政策過程の理論分析』 岩崎正洋編（三和書籍、2012） 『英国の大都市行政と都市政策 1945-2000』 馬場健（敬文堂、2012） 『日本の自治体外交』 ブルネンドラ・ジェイン著/今村都南雄監訳（敬文堂、2009） 『比較政治制度論』 建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史（有斐閣アルマ、2008） 『新制度論』 B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『Politics in Time: History, Institutions, and Social Analysis,』 Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research』 Gary King, Robert O. Keohane, Sidney Verba, (Princeton University Press, 1994)
成績評価の方法	▶ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（50%）卒論および「卒業プレゼンテーション」（50%） ※ノースアジア大学の規定により、出席回数規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4限および木曜日 4限
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	▶ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し（「地方創生論」「都市政策論」参照）、 ▶ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく（「公共政策論」参照）、 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である（「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」参照）、

授業計画			
第1回	オリエンテーション： 研究倫理教育(全学共通テーマ)	第17回	インターミッション：研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について(全学共通テーマ)
第2回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション①	第18回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況⑦
第3回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション②	第19回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況⑧
第4回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション③	第20回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議①
第5回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション④	第21回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議②
第6回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況①	第22回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議③
第7回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況②	第23回	ゼミ論・進路選択の最終進捗報告と討議④
第8回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況③	第24回	ゼミ論完成と「卒業プレゼンテーション」実施①
第9回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況④	第25回	ゼミ論完成と「卒業プレゼンテーション」実施②
第10回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑤	第26回	ゼミ論完成と「卒業プレゼンテーション」実施③
第11回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑥	第27回	ゼミ論完成と「卒業プレゼンテーション」実施④
第12回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑦	第28回	ゼミナールⅢのまとめと卒業後への展望①
第13回	ゼミ論・進路選択等進捗のプレゼンテーション⑧	第29回	ゼミナールⅢのまとめと卒業後への展望②
第14回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況⑤	第30回	ゼミナールⅢのまとめと卒業後への展望③
第15回	「卒業プレゼンテーション」および公務員・資格試験等の状況⑥	第31回	ゼミナールⅢのまとめと卒業後への展望④
第16回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評	第32回	定期試験あるいはゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲについて総括

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (スポーツ科学)		
	ゼミ担当者名	中澤 翔		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	競技力向上・健康増進を目的としたスポーツ科学の知見を学ぶ
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ科学に関する研究成果をまとめ、プレゼンテーションを行うことができる</li> <li>・測定・調査したデータを解析し、評価することができる</li> </ul>
ゼミの概要	卒業研究のテーマを決定し、研究成果をまとめ発表する
授業時間外の学習	卒業研究に関連する書籍や論文を読む
履修条件	スポーツ科学に興味・関心があり、担当教員と面談し、履修の許可を得ること
テキスト	特になし
参考文献・資料	スポーツ科学に関する資料を授業中に配布する
成績評価の方法	授業態度 60%、レポート・プレゼンテーション 40% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 9:00-12:00
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	スポーツ科学を学び、「競技力向上」、「健康増進」、「地域社会への貢献」につなげていきましょう。

授業計画			
第1回	体験授業	第17回	データ解析・資料まとめ④
第2回	オリエンテーション ゼミナールの進め方	第18回	データ解析・資料まとめ⑤
第3回	卒業研究の計画立案①	第19回	データ解析・資料まとめ⑥
第4回	卒業研究の計画立案②	第20回	中間報告①
第5回	卒業研究の計画立案③	第21回	中間報告②
第6回	卒業研究の計画立案④	第22回	中間報告③
第7回	文献調査・フィールド測定①	第23回	卒業論文の執筆①
第8回	文献調査・フィールド測定②	第24回	卒業論文の執筆②
第9回	文献調査・フィールド測定③	第25回	卒業論文の執筆③
第10回	文献調査・フィールド測定④	第26回	卒業論文の執筆④
第11回	文献調査・フィールド測定⑤	第27回	卒業論文の執筆⑤
第12回	文献調査・フィールド測定⑥	第28回	卒業論文の執筆⑥
第13回	データ解析・資料まとめ①	第29回	卒業研究の報告①
第14回	データ解析・資料まとめ②	第30回	卒業研究の報告②
第15回	データ解析・資料まとめ③	第31回	卒業研究の報告③
第16回	定期試験（レポート）	第32回	定期試験（レポート）

	ゼミナール名	表現文化ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	橋元志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国内外の文化・文学について学び、大学生にふさわしい教養を身につけ、グローバルな社会を生きるための社会人基礎力を育成する。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 自然や文化財の保全、文化観光、国内外の文学等の研究を行い、論述やプレゼンテーションを行うことができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の素晴らしい自然や文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリス等の文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化観光や自然・文化財保護、異文化理解、国内外の文学等をテーマに論述およびプレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる論説や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、論文等を読むことを推奨します（2時間程度）。
履修条件	① 表現文化ゼミナールⅠまたはⅡを履修し、単位を修得していること。また、「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」「世界文学としての日本文学」のいずれかを履修して単位を修得していること。 ② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナールの1回目・2回目もしくは指定された時間）に担当教員と必ず面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は、単位を認定できません）。</u> ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、指導を受け入れること。周囲の人々には思いやりをもって接し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆さんの意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業時に随時、紹介していきます。安江則子編著『世界遺産学への招待』（法律文化社 2011年）河野靖『文化遺産の保存と国際協力』（風響社 1995年）小倉孝誠『歴史をどう語るか 近現代フランス、文学と歴史学の対話』（法政大学出版局 2021年）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜日 14:40-16:10 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

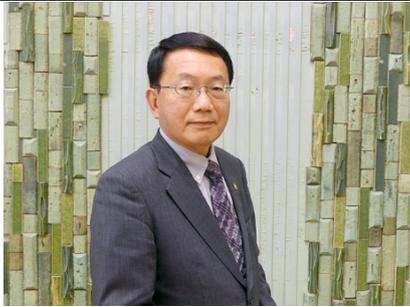
<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>ぜひ一緒に、素晴らしい自然や歴史・文化をめぐる旅に出てみませんか。学生時代の友人は人生の宝物とも言われます。共に学びながら、素敵な思い出をたくさん作っていきましょう。</p>
------------------------------	--

授業計画			
第1回	研究倫理教育	第17回	研究テーマとアウトライン
第2回	研究テーマと卒業プレゼンについて	第18回	文献引用と論述の仕方
第3回	キャリア・プランニング I	第19回	プレゼンテーションの極意
第4回	履歴書・エントリーシート等対策について	第20回	卒業プレゼンテーションの練習 I
第5回	SPI 試験及び教養試験対策について	第21回	卒業プレゼンテーションの練習 II
第6回	面接試験（対面・WEB）対策について	第22回	卒業プレゼンテーションの練習 III
第7回	グループ・ディスカッション対策について	第23回	ヨーロッパ文明の源流
第8回	最終選考を突破するには	第24回	イギリスの歴史と文化
第9回	研究テーマと文献講読	第25回	絶対王政とフランスの文化
第10回	プレゼンテーションのポイント	第26回	芸術の都パリと文化・文学
第11回	論文の書き方	第27回	卒業プレゼンテーション I
第12回	世界遺産条約とアテネ憲章・ヴェネツィア憲章	第28回	卒業プレゼンテーション II
第13回	世界遺産のグローバル・ストラテジー	第29回	卒業プレゼンテーション III
第14回	文化財保護と観光振興	第30回	総括－研究の意義と社会人基礎力－
第15回	個人面談	第31回	個人面談
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ		
	ゼミ担当者名	花田 富二夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	前期では、人口消滅に沿った書物を輪読して発表を行い、後期は自己のテーマに関する調査・研究とともに、最終の卒業発表に向けて課題研究を完成させる。
ゼミの到達目標	課題研究を達成し、それに沿ってプレゼンテーションを完了できたか。
ゼミの概要	前期は、中公新書『地方消滅』を輪読、発表し、後期は課題研究による卒業発表を行う。
授業時間外の学習	自己の課題に沿って、調査・研究を行うこと。
履修条件	特になし。
テキスト	中公新書『地方消滅』（820円）全員購入。他に、参考図書として、同新書『地方消滅一創成戦略篇』と『仕事と家族』を参照する。
参考文献・資料	講義中に指示する。
成績評価の方法	ゼミへの貢献度及び授業時の提出課題を重視する。これらを総合判断して評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4限
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	前期課題とともに後期は卒業研究に向けて力を尽くすこと。欠席連絡は確実にを行うように。

授業計画			
第1回	研究倫理教育、ガイダンス	第17回	卒業研究題目設定・中間発表
第2回	図表分析練習（1）・卒業研究発表準備	第18回	卒業研究題目設定・中間発表
第3回	図表分析練習（2）・卒業研究発表準備	第19回	卒業研究題目設定・中間発表
第4回	図表分析練習（3）・卒業研究発表準備	第20回	卒業研究資料収集と分析
第5回	担当箇所分析調査原稿作成	第21回	卒業研究資料収集と分析
第6回	担当箇所分析調査原稿作成	第22回	卒業研究資料収集と分析
第7回	担当箇所分析調査原稿作成	第23回	卒業研究資料収集と分析
第8回	担当箇所分析調査原稿作成	第24回	卒業研究原稿作成
第9回	担当箇所パワーポイント	第25回	卒業研究原稿作成
第10回	担当箇所パワーポイント	第26回	卒業研究原稿作成
第11回	担当箇所パワーポイント	第27回	卒業研究プレゼンテーション準備
第12回	担当箇所パワーポイント	第28回	卒業研究プレゼンテーション準備
第13回	第1・第2章プレゼンテーション	第29回	卒業研究プレゼンテーション
第14回	第3・4章プレゼンテーション	第30回	卒業研究プレゼンテーション（予備）
第15回	第5・6章プレゼンテーション	第31回	年間講義まとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	日本経済のマクロ分析Ⅲ		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	◆対面のみ    □遠隔のみ    □対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を特定しその解決策を探る。4年次の前半は、日本政府の財政赤字を取り上げる。また就活支援に注力する。最終年次なので後半は卒業発表と卒論指導を行う。
ゼミの到達目標	日本経済の最重要な問題点である「日本政府の財政赤字」の実態を明確に理解したうえで、その解決方法を探します。
ゼミの概要	4年次ということで、まず就職活動の支援と、最重要問題の「日本政府の財政赤字」に真正面から取り組みます。この問題についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論して下さい。この1年間で、卒論を作成して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。
履修条件	日本経済新聞を購読すること（ゼミの最初に、輪番で経済記事の過去1週間のトピックスを報告してもらいます）
テキスト	「日本の財政はどうなっているのか」湯本雅氏 岩波書店（予定）
参考文献・資料	「財政危機の深層」小黒一正 NHK出版社 日本経済と財政危機の本質シリーズ8「このままでは、国家財政の破綻は確実！」深澤泰郎、 「日本の財政関係資料（令和3年10月）」財務省、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表と討論（35%）、輪読時のレジュメ（25%）、卒論（40%） 卒業論文の作成が本ゼミナール修了の必須条件です。卒業論文の完成は1月中旬とします。それまでに、教員の指導を受けて、理解を得て下さい。※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>企業の株価と日本経済は別のものです。株価が最高値を付けたとしても、日本の将来については、人口動態を主因として、マクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。</p> <p>その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にもさらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。</p> <p>また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。<b>国全体は豊かにならない中で、個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。</b></p> <p>* 受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。ゼミでパソコンを使用して、経済データの分析（相関関係など）、グラフ作成を行う場合があります。</p>
授業計画	

第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について 研究倫理教育 輪読書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	財政総論	第18回	卒論作成指導(ただし、本年は3年次の社会保障と金融政策の問題点を取り上げる可能性あり)
第3回	中央政府の財政活動	第19回	卒論作成指導(同)
第4回	地方政府の財政活動	第20回	卒業論文進捗状況確認
第5回	租税に関する諸問題(1)	第21回	卒業論文進捗状況確認
第6回	租税に関する諸問題(2)	第22回	卒論作成指導(同)
第7回	社会保障制度に関する諸問題(1)	第23回	卒論作成指導(同)
第8回	社会保障制度に関する諸問題(2)	第24回	卒論作成指導(同)
第9回	地方財政に関する諸問題	第25回	卒論作成指導(同)
第10回	公債に関する諸問題	第26回	卒論作成指導(同)
第11回	財政ポジションの健全化を目指して	第27回	卒論作成指導
第12回	中長期の経済財政に関する試算(令和2年1月17日)の検証	第28回	卒論作成指導
第13回	第1回~第12回までのまとめとレポート作成	第29回	卒論作成指導
第14回	レポート作成	第30回	卒論発表
第15回	3年次及び上記も踏まえた卒論テーマ予告	第31回	卒論発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (労働経済学・マイクロデータ分析)		
	ゼミ担当者名	森本 敦志		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	1. 経済データ分析に基づく研究を行います。 2. 全国的な論文大会へ出場し、入賞を目指します。
ゼミの到達目標	Pythonを用いて、データ分析を行うスキルを身につける。
ゼミの概要	本ゼミでは、グループワークで研究を行います。ISFJなどの全国的なゼミ論文大会へ出場し、入賞を目指します。
授業時間外の学習	自分が興味を持っている分野の研究論文を読んでください。経済学分野の論文は英語で書かれているものが多いので、英語の学習も行ってください。
履修条件	
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
参考文献・資料	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
成績評価の方法	ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 50%、研究成果の発表と貢献度 50%の割合で評価する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日 9:00~10:30
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	研究の基本となる回帰分析や、データの操作について学びます。さらに因果推定に必要な様々な手法(パネルデータ分析、操作変数法、DID等)も学びます。データ分析はPythonを用いて行います。研究はグループワークで行います。他のメンバーと協調しながら研究を行ってください。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育と活動方針の説明	第17回	研究計画の策定
第2回	Pythonによるデータ分析の実習	第18回	研究計画の策定
第3回	Pythonによるデータ分析の実習	第19回	研究計画の策定
第4回	Pythonによるデータ分析の実習	第20回	研究計画の策定
第5回	Pythonによるデータ分析の実習	第21回	研究論文の執筆
第6回	Pythonによるデータ分析の実習	第22回	研究論文の執筆
第7回	実証研究の文献サーベイ	第23回	研究論文の執筆
第8回	実証研究の文献サーベイ	第24回	研究論文の執筆
第9回	実証研究の文献サーベイ	第25回	研究論文の執筆
第10回	実証研究の文献サーベイ	第26回	研究論文の執筆
第11回	実証研究の文献サーベイ	第27回	研究論文の執筆
第12回	実証研究の文献サーベイ	第28回	研究発表
第13回	実証研究の文献サーベイ	第29回	研究発表
第14回	実証研究の文献サーベイ	第30回	研究発表
第15回	実証研究の文献サーベイ	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	憲法ゼミナール		
	ゼミ担当者名	渡部 毅		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	憲法・行政法、地方行政などの分野に関して、各自が関心のある課題を設定して、卒業研究に向けた調査、発表等を行います。
ゼミの到達目標	憲法や行政法の学説や判例、地方行政における問題点等を分析し、それらの法分野・領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できる。 各自が設定した関心のあるテーマについて調査、研究を行い、発表を行う。
ゼミの概要	このゼミでは、これまで学習した憲法、行政法、地方自治法等の知識を前提にして、各自が関心のある現代社会における公法分野にかかわる様々な問題について分析、検討し、最終的には卒業論文としてまとめることを行います。 基本的には各人が「卒業研究」を進める形になります。3年次に関心をもった研究テーマを深めても良いし、新たな研究テーマに取り組んでもらっても構いません。総合政策学部では、卒業認定にあたっては、ゼミナールで研究した事項を、複数の教員の前で口頭発表を行うことが義務付けられていますので、各人が設定した関心のあるテーマについて調査をしてもらい、ゼミ内での中間発表等も行って、口頭発表に備えます。 ゼミは、自ら進んで参加することが求められる場ですので、ゼミのさまざまな活動に積極的に取り組んで、役割を果たす学生の参加を歓迎します。なお、参加人数や個々のゼミ生の要望、大学行事との関係等により、ゼミの内容や進行方法を変更することがあります。
授業時間外の学習	特に設定はしませんが、自分が設定したテーマに関連する事項について、普段から関心を持つようにしてください。
履修条件	憲法や行政法関連科目を履修済みであること。
テキスト	各自が使用している教科書・判例集等
参考文献・資料	定評のある基本書を参考にしてしてください。ゼミにおいても、適宜、紹介します。
成績評価の方法	レポーターとしての報告内容(40%)、参加態度(40%)、定期試験20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 15:00～16:00 木曜日 15:00～16:00
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	憲法や行政法の学習を通じて、公法的思考を伸ばしていきましょう。

授業計画			
第1回	前期のガイダンス・研究倫理教育・論文の書き方	第17回	後期ガイダンス
第2回	憲法・行政法の復習 (1)	第18回	研究成果の作成 (1)
第3回	憲法・行政法の復習 (2)	第19回	研究成果の作成 (2)
第4回	憲法・行政法の復習 (3)	第20回	研究成果の作成 (3)
第5回	憲法・行政法の復習 (4)	第21回	研究成果の作成 (4)
第6回	憲法・行政法の復習 (5)	第22回	研究成果の作成 (5)
第7回	各人の研究内容の検討 (1)	第23回	研究成果の作成 (6)
第8回	各人の研究内容の検討 (2)	第24回	研究成果の作成 (7)
第9回	各人の研究内容 (仮) の決定	第25回	研究成果の作成 (8)
第10回	各人の研究計画の策定 (1)	第26回	ゼミ内での発表 (1)
第11回	各人の研究計画の策定 (2)	第27回	ゼミ内での発表 (2)
第12回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (1)	第28回	予備日・事後学修
第13回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (2)	第29回	予備日・事後学修
第14回	研究の中間発表 (1)	第30回	予備日・事後学修
第15回	研究の中間発表 (2)	第31回	予備日・事後学修
第16回	定期試験	第32回	定期試験